

令和5年度 授業計画書(シラバス)

科目名	あん摩マッサージ指圧基礎 I	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1年	
担当教官名	木村秀伯 今井進	
修得単位数	4単位	
年間授業時数	120時間	
授業の方法	実技	
科目の概要 (授業科目の内容)	あん摩の沿革、施術者としての注意点、基本手技、全身あん摩(側臥位・仰臥位・腹臥位)などについて学習します。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 施術者としての注意事項(身だしなみ・真摯な態度・言葉遣い・揉み返しや骨折の回避・衛生管理など)について、説明・記述できる。 2. 施術部位の術式について説明・記述できる。 3. 施術部位の揉捏法などの漸増漸減圧や骨及び筋の触診が的確に行える。 4. 全身あん摩を適切な時間内に行える。 	
授業計画	前期計 (15週)	前期計 60時間
	(前期)	
	1. オリエンテーション 施術者としての注意事項 あん摩の沿革	2
	2. 施術部位の名称 基本手技 3. 側臥位のあん摩	10 48
	後期計 (15週)	後期計 60時間
	(後期)	
	4. 側臥位のあん摩 5. 仰臥位のあん摩 6. 伏臥位のあん摩	20 15 25
実務経験の有無 その活かし方	有	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師 病院・治療院での施術経験を生かして、リスク管理のもと安全で効果的な、患者さんに合わせた施術ができるよう指導します。
成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理療教育実施細則に基づき、前期期末・後期期末の平均点を学年末評価(小数点第一位は切り捨て)とし、60点以上で単位修得となる。 2. 学年末評価が60点未満の場合、単位修得できず原級留置となる。 	
履修上の留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中間期には形成的評価を実施する。 2. リスク管理・衛生管理に充分配慮する。特に母指圧の力度は無理とならないよう心がける。 3. 骨・関節・筋などは解剖学と関連するので、充分学習する。 	
自己学習の進め方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日ごろから母指の鍛錬を行う。 2. 予習は事前に施術部位の術式を暗記しておく。 3. 復習は各自、授業で習った部位の施術練習を行う。 	
使用教科書	なし	
参考書/参考資料	「理療基礎実習」日本ライトハウス 刊 「あん摩基礎実習マニュアル」	

令和5年度 授業計画書(シラバス)

科目名	あん摩マッサージ指圧基礎実技Ⅲ	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1年	
担当教官名	今井 進 中西 初男	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	実技	
科目の概要 (授業科目の内容)	指圧の基礎技術を実習形式により、体験的に学びます。臨床実習の前段階として、部位別の施術法を中心に学びます。	
到達目標	1. 施術者としての態度、心構えを身につけます。 2. 指圧の基本手技、部位・体位・姿勢による操作の特徴を学びます。 3. 施術を行う上でのリスク管理、被施術者への配慮等を身につけます。	
授業計画	前期計 (15週)	前期計30時間
	1. 施術への導入 ①指圧の意義と役割 ②施術者としての心構え ③施術室の管理 ④施術用具の取扱い ⑤衛生管理(手指の消毒を含む) ⑥リスク管理	5
	2. 指圧施術上の基本的事項 ①押圧操作 ②押圧の三原則 ③母指圧の型 ④按摩手技の応用	25
	後期計 (15週)	後期計30時間
	3. 指圧の基本手技 ①押圧操作法 ②運動操作法	10
4. 腹臥位の指圧 ①背部 ②殿部 ③下肢 ④後頭部・後頸部・肩上部	10	
5. 背臥位の指圧 ①腹部 ②下肢 ③頸部	10	
実務経験の有無 その活かし方	有 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師 病院・治療院での施術経験を活かして、リスク管理のもと安全で効果的な、患者さんに合わせた施術ができるよう指導します。	
成績評価の方法	前期期末、後期期末の年2回の総括的評価の平均点をもって年間評価とします。(小数点以下は切り捨て)なお、中間期には形成的評価を実施します。各評価は、試験に実習態度等を加味したものとします。	
履修上の留意点	自身の健康管理に留意しましょう。身体や白衣を清潔に保ち衛生管理に留意しましょう。クラスメートを患者想定で進めます。誰もがお互いに敬意を払う態度で取り組みましょう。	
自己学習の進め方	授業時間内での練習が主となりますが、学習した基本手技については、授業以外の時間帯にも反復継続して訓練して下さい。正確な手技や体位で行うことに注意し、技能の向上を図るよう努めてください。	
使用教科書	なし	
参考書/参考資料	なし	

令和5年度 授業計画書(シラバス)

科目名	はりきゅう基礎実習 I	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1年	
担当教官名	上野博之・池田正道	
修得単位数	3単位	
年間授業時数	90時間	
授業の方法	実技	
科目の概要 (授業科目の内容)	はり施術に関する基礎的な知識と技術について学びます。	
到達目標	1. 身だしなみを整え、身のまわりの衛生管理を意識し、施術される相手を思いやった施術ができるようになる。 2. 寸3-1番、寸6-2番の鍼を使用し、目的の経穴に目的の深さまで刺鍼できるようになる。	
授業計画	前期計 (15週)	前期計 45時間
	1. オリエンテーション 2. 施術への導入 (1) 鍼施術の意義と役割 (2) 施術者としての心構え (3) 施術室の管理 (4) 施術用具の基礎知識とその取り扱い (5) 衛生管理(手指の消毒を含む) (6) リスク管理(感染予防対策を含む) 3. 施鍼の基礎 (1) 消毒法の実際 (2) 前揉捏と後揉捏 (3) 押手と刺し手 (4) 管鍼法と燃鍼法 (5) 刺入法と抜針法 4. 基本手技 5. 身体各部への刺鍼 6. 主な経穴への刺鍼 ※5. 6. は自身、クラスメイトの体へ刺鍼の順 7. 中間試験(形成的評価)	1 2 20(3. 4含む) 20(5. 6含む) 2
	後期計 (15週)	後期計 45時間
	3. 施鍼の基礎 (1) 消毒法の実際 (2) 前揉捏と後揉捏 (3) 押手と刺し手 (4) 管鍼法と燃鍼法 (5) 刺入法と抜針法 4. 基本手技 ※3. 4. の内容を随時確認しながら実施 5. 身体各部への刺鍼 6. 主な経穴への刺鍼 ※5. 6. はクラスメイトを相手に実施 7. 中間試験(形成的評価)	43 2
実務経験の有無 その活かし方	有	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師 病院勤務の経験を活かし、臨床現場での施術の様子などを話すことで、基礎練習の中でも実際の現場の雰囲気を感じとれ、練習の動機付けとなれるようにします。
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします、(小数点第一位は切り捨て)	
履修上の留意点	6月、11月に形成評価のため、2回中間試験を行います。	
自己学習の進め方	事故防止の観点から原則として鍼基礎 I の授業以外の時間には鍼は使用できません。 放課後に練習したい場合は教官にご相談ください。	
使用教科書	鍼灸実技 基礎と臨床 改訂第5版 オリエンズ研究会	
参考書/参考資料	人体の構造と機能解剖学(第2版第14刷)、新版 経絡経穴概論	

令和5年度 授業計画書(シラバス)

科目名	東洋医学概論Ⅱ	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	2年	
担当教官名	中西 初男	
修得単位数	3単位	
年間授業時数	90時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	はり師・きゅう師として必要な東洋医学の基礎、生理観、疾病観、診断法、治療法について学びます。	
到達目標	東洋医学の基礎理論、生理観、疾病観、診断法について理解し、東洋医学的治療法についても説明できるようになる。さらに、これらを治療に応用できるようになる。	
授業計画	前期計 (15週)	前期計 45時間
	1. オリエンテーション	1
	2. 東洋医学の基礎理論 (1)東洋医学の意義と特徴、(2)陰陽五行論	17
	3. 東洋医学の生理観 (1)東洋医学における人体の構成 (2)気・血・津液・精・神の生理 (3)臓象論、(4)経絡と経穴	17
	4. 東洋医学の疾病観 (1)病因論 (2)病理・病証論 ①八綱病証 ②気・血・津液・精の病理と病証 ③臓腑の病理と病証	10
	後期計 (15週)	後期計 45時間
4. 東洋医学の疾病観 ④経絡病証 ⑤経筋病証 ⑥六経病証	10	
5. 診断論 (1)四診法、(2)証の立て方	25	
6. 治療論 (1)はりきゅう両方、(2)手技療法	10	
実務経験の有無 その活かし方	有	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師 病院や鍼灸施術所での勤務経験を活かし、実践を踏まえて教授します。
成績評価の方法	総括的評価は前後期の中間・期末に年4回実施し、前後期の評価の平均点をもって年間評価とします。なお、成績は小数点第1位で切り捨てた整数とします。	
履修上の留意点	はり師・きゅう師国家試験の出題基準を考慮した講義を行います。	
自己学習の進め方	東洋医学概論の難解な言葉や漢字については、事前に読みを調べることで学習がスムーズに進みます。 授業が終わったら必ずその内容を復習し、不明な箇所はそのままにせず質問するようにしてください。	
使用教科書	基礎理療学Ⅰ(東洋医学概論)改訂第7版	
参考書/参考資料	東洋療法学校協会編 新版東洋医学概論	

令和5年度 授業計画書(シラバス)

科目名	臨床医学各論	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	3年	
担当教官名	池田正道	
修得単位数	3単位	
年間授業時数	90時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	各疾患の概念、病態生理、原因、症状、検査、治療、予後について学習する。	
到達目標	各疾患の主な特徴を理解し、概念や原因、症状、検査、治療法等について簡潔に説明出来る。	
授業計画	前期計 (15週)	前期計 45時間
	1. オリエンテーション 2. 循環器疾患(2年次の続きから) 3. 呼吸器疾患 4. 消化器疾患 5. 代謝・栄養疾患 6. 内分泌疾患 7. 腎泌尿器疾患	1 5 7 11 7 7 7
授業計画	後期計 (15週)	後期計 45時間
	8. 男性生殖器疾患 9. 婦人科疾患 10. 血液・造血器疾患 11. アレルギー・免疫異常 12. 耳鼻咽喉科疾患 13. 眼科疾患 14. 皮膚科疾患 15. 感染症	3 6 8 8 5 5 5 5
実務経験の有無 その活かし方	有 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師 病院での実務経験を活かし、特に遭遇することの多い疾患については経験談を交えながら重点的に解説します。	
成績評価の方法	前期・後期とも、中間期と期末に試験を行い、その平均点(小数点以下は切り捨て)を当該学期の評価点とする。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点(小数点以下は切り捨て)とする。	
履修上の留意点	1. 各疾患の概念、病態生理、原因、症状、検査、治療、予後については、国家試験の出題頻度の高い疾患や主に理療臨床で遭遇することの多い疾患等に重点を置きながら解説します。 2. 適宜、解剖学や生理学、臨床医学総論等の関連科目に留意しながら指導をおこないます。 3. 総括的評価として、前期中間・期末、後期中間・期末の計4回試験を実施します。	
自己学習の進め方	解剖学や生理学といった人体の構造と機能に関する知識については、教科書等を用いて逐次復習し、授業で学習した知識のベースアップに努めてください。	
使用教科書	生活と疾病Ⅲ(臨床医学各論)上・中・下巻	
参考書/参考資料		

令和5年度 授業計画書(シラバス)

科目名	リハビリテーション医学	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	3年	
担当教官名	今井 進	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	リハビリテーションの理念と方法、各疾患のリハビリテーション、運動の仕組みについて学びます。	
到達目標	リハビリテーションの理念や方法などを理解することで、その考え方や方法を臨床に応用・実践することができるようになる。	
授業計画	前期計 (15週)	前期計 30時間
	オリエンテーション	1
	1. リハビリテーション総説 (1)リハビリテーションと障害 (2)リハビリテーション医学と医療	11
	2. 障害の評価と治療 (1)障害の評価 (2)障害の治療	17
	※前期中間評価	1
	後期計 (15週)	後期計 30時間
	3. 各疾患のリハビリテーション (1)脳卒中、(2)脊髄損傷、(3)脳性麻痺と小児疾患、(4)切断、(5)骨関節疾患、(6)末梢神経障害、(7)関節リウマチ、(8)パーキンソン病、(9)呼吸器疾患、(10)心疾患	23
	4. 運動の仕組みと身体の機能	6
	※後期中間評価	1
実務経験の有無 その活かし方	有 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師 病院での実務経験を活かし、実際に臨床現場で行われているリハビリテーションの内容について説明します。	
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします、(小数点第一位は切り捨て)	
履修上の留意点	前期・後期の中間期に形成的評価として中間試験を実施します。	
自己学習の進め方	授業の進行に合わせて1・2年で学習した内容(解剖学や生理学など)を復習してください。そのことがリハビリテーションの理解を深め、また国家試験対策となります。	
使用教科書	生活と疾病 I A(概論編)、I B(基礎運動学編) 日本理療科教員連盟教科書委員会編	
参考書/参考資料	リハビリテーション医学 東洋療法学校協会編	

令和5年度 授業計画書(シラバス)

科目名	臨床取穴学(生体観察を含む)	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	3年	
担当教官名	中西 初男	
修得単位数	1単位	
年間授業時数	30時間	
授業の方法	講義(演習を含む)	
科目の概要 (授業科目の内容)	施術者として、施術を適切かつ効果的におこなうための取穴法、選穴法及び配穴法について学習します。	
到達目標	1. 臨床に役立つツボの使い方を理解し、習得することができる。 2. 国家試験対策としても学ぶことができる。	
授業計画	前期計 (15週)	
	1. 取穴法の基礎 (1)取穴姿勢、取穴方向 (2)切経と取穴技術の基礎	2
	2. 選穴法の基礎、配穴法の基礎 (1)選穴法の概要、(2)選穴法の原則、 (3)配穴法の概要、(4)配穴法の原則	7
	3. 要穴の概略 (1)各経の五要穴、五行穴について学ぶ	5
	復習と評価	1
	後期計 (15週)	
	4. 各経の要穴の取穴 (1)十四経脈	5
	5. その他の要穴 (1)四総穴、(2)八総穴、(4)交会穴、(5)下合穴	2
6. 組み合わせ穴 (1)六ツ灸、(2)小児斜差の灸、(3)中風七穴、(4)脚気八処の穴	2	
7. 総合的取穴 (1)横並び穴の取穴、(2)局所別取穴	2	
8. 主要症候に対する取穴 (1)頭痛、(2)肩こり、(3)腰下肢痛、(4)腹部の症状、(5)神経痛と神経麻痺	3	
復習と評価	1	
実務経験の有無 その活かし方	有	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師 病院や鍼灸施術所での勤務経験を活かし、実践を踏まえて教授します。
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期末・後期末の平均点を学年末評価とします。(小数点第一位は切り捨て) 評価は前後期末試験にペーパー試験を実施します。	
履修上の留意点	取穴については生理観察にも重点を置き指導します。 確実、かつ素早い取穴ができるよう繰り返し指導します。 適切に臨床に応用できるよう繰り返し指導します。 他の科目との関連に留意します。	
自己学習の進め方	既習の内容について、座学だけでなく、直接身体を触ることで記憶の定着をはかります。	
使用教科書	新版 経絡経穴概論(拡大版)	
参考書/参考資料	1. 理療基礎実習(全国盲学校長会編) 2. 東洋医学臨床論(東洋療法学校協会編)	

令和5年度 授業計画書(シラバス)

科目名	あん摩マッサージ指圧の歴史と理論	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	3年	
担当教官名	中西 初男	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	講義(必要に応じ一部実技を含む)	
科目の概要 (授業科目の内容)	手技療法を行うにあたり必要な技術や理論、あん摩指の歴史等について学習します。	
到達目標	手技に関する理論を理解することでより効果的な施術ができる力を養うことを目標とします。	
授業計画	前期計 (15週)	前期計30時間
	1. あん摩の意義と歴史	2
	2. あん摩の基本手技	8
	3. 古法あん摩	3
	4. マッサージの意義と歴史	2
	5. マッサージの基本手技	7
	6. 指圧の意義と歴史	2
	7. 指圧の基本手技	4
	8. その他の関連する治療法	2
	後期計 (15週)	後期計30時間
1. あん摩マッサージ指圧の臨床応用	5	
2. リスク管理	4	
3. 治療的作用と生体反応	4	
4. あん摩マッサージ指圧の基礎理論	10	
5. 関連学説	7	
実務経験の有無 その活かし方	有 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師 病院や鍼灸施術所での勤務経験を活かし、実践を踏まえて教授します。	
成績評価の方法	前期期末・後期期末にそれぞれ筆記試験を実施し、その平均点を学年末評価とします。	
履修上の留意点	中間試験期には形成的評価を行います。	
自己学習の進め方	予習・復習を確実にし、疑問点は次の授業で質問するよう習慣づけてください。	
使用教科書	基礎保健理療実(保健理療理論) 日本ライトハウス	
参考書/参考資料	東洋療法学校協会 あん摩マッサージ指圧理論第3版	